

## 創刊にあたって

「メディア・情報・コミュニケーション研究」(英文名 Journal of Media, Information and Communication) は、WebLab が発行するフリー・オンラインジャーナルです。

誌名の「メディア」「情報」「コミュニケーション」は、本誌の対象範囲であると同時に、コミュニケーション分野の研究対象でもあります。メディアを介して情報は伝達され、それによってコミュニケーションが生まれるからです。

さて、創刊までの経緯をご紹介します。一つは WebLab にかかわることがらです。

WebLab とは 2006 年に発足した小さな研究会です。この研究会はインターネットや携帯電話などの CMC (Computer-mediated communication) に関する研究の報告や手法の情報交換の場として設けられました。なかでも若手研究者の発表、萌芽研究の発表に重点を置いています。研究会活動を続けて行くなかで、欲も出てきました。それが雑誌の刊行です。ボランティアな研究会での発表は、そのままでは業績としてあげたり、引用したりできません。発表には、学会機関誌になじまないものや試行的研究もあつたりします。それらを実現する媒体が欲しかったのです。

もう一つ、刊行の直接のきっかけにふれなければなりません。それは Twitter でのやりとりです。話は 2014 年 5 月にさかのぼります。当時、広島大の助教だった清水裕士さんが、自身で開発した HAD というフリーの統計分析ソフトを「業績」として発表できる場はないだろうかとツイートしました。北村智さんはじめ、それを目にした人から、なんとかならないだろうか、実は以前からそういう場があればいいと思っていた、との声が寄せられました。研究支援ツールは、WebLab で重視してきた領域です。実際、WebLab Meeting (研究会) でも、テキストマイニングソフトの紹介やチュートリアルを何度か行ってきました。取り上げたソフトは、ttm (TinyText Miner) と KH coder です (どちらも、その後、商業出版物が刊行され、広く利用されています)。

本誌の刊行にあたっては、WebLab 事務局の北村さんが中心的役割を担ってくれました。この場を借りて、お礼申し上げます。

「メディア・情報・コミュニケーション研究」が、誌名どおり、メディアや情報、コミュニケーションに関する行動科学研究の気軽な情報交換の場、オープンな交流の場となることを念じてやみません。なにとぞ応援をお願いします。

2016 年 3 月

「メディア・情報・コミュニケーション研究」編集委員会を代表して  
川浦康至

WebLab: [www.tku.ac.jp/~weblab/](http://www.tku.ac.jp/~weblab/)